

私は、大きく5点について質問します。

はじめに、AEDの適切な利用についてです。

自動体外式除細動器（AED）は、平成16年7月に救命の現場に居合わせた市民による使用の取扱いを示して以降、国内において急速に普及し、AEDを用いた救命事例が多数報告されております。一方で、AEDは、適切な管理が行われなければ、緊急時に作動せず、救命効果に重大な影響を与えるおそれがある医療機器でもあります。

これらを踏まえ、厚生労働省ではAEDの適切な管理等を徹底するため、AEDの設置者等に対して日常点検や消耗品の管理、設置情報の登録・公開等の実施を呼び掛けています。

厚生労働省によると、バッテリーを含めAEDの管理方法は法令に定めがなく、消防法で6か月に1回以上の点検が定められている消化器などと異なり、AEDの管理は設置者等に委ねられています。実際にAEDを使おうとしたところ、バッテリーが切れていて使えなかったという事例が報告されています。バッテリーの寿命はメーカーによって異なりますが、概ね約4年と言われています。

区では、学校、保育園をはじめとした全区有施設へのAED設置を順次進めており、令和4年9月現在、236の区有施設にAEDが設置されていますが、日常点検はどのように行われていますでしょうか。同じく消耗品である電極パッドも寿命は約2年と言われておりますが、交換期限を過ぎるとパッドが使用できない状態になる可能性が指摘され

ています。バッテリー及びパッドの点検について1年に1回など明確に点検計画と担当者を決めて適切に実施していくべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。

AEDは、救急車が到着する前の処置として、効果が高いことで知られていますが、胸をはだけて電極パッドを肌に直接貼るため、傷病者が女性の場合、使用をためらう人も多いことが課題となっています。

京都大学などの研究グループがまとめた調査結果によると、小学生と中学生では男女に有意な差はありませんでしたが、高校生になると大きな男女差が出ていました。AEDのパッドが貼られた割合は高校生の男子生徒83.2%、女子生徒55.6%とその差は30ポイント近くになります。

そこで、傷病者が女性であってもAEDの使用をためらわないために、胸を覆うための三角巾をAEDケースに配備すべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。三角巾は、プライバシー保護のためだけでなく、止血や固定など応急措置にも有用であると考えます。

助かる命を確実に助けるために、必要な配慮を是非お願いしたいと思います。

2点目は気象防災アドバイザーの活用についてです。

近年、地球温暖化などの影響により、自然災害が激甚化・頻発化しており、政府や自治体等による適時・的確な防災対応が一層求められています。

頻発化・激甚化する台風やゲリラ豪雨などの自然災害に対応するため、気象のプロの視点から自治体に助言などを行う「気象防災アドバイザー」が各地で活躍をしています。地域の防災・減災のために公明党は気象防災アドバイザーの活用や普及、人材確保を強力に推進してきました。

現在、気象防災アドバイザーが活動している、ある自治体の首長は、「職員に気象に関する知識が格段にスキルアップしたと感じるとともに、分かりやすい解説と助言により、避難情報を発令するならここしかないというような確度の高い形で発令できた」、また、ある自治体の担当者は、「アドバイザーの助言は内容が濃くて正確であり、アドバイザーの分析による報告を首長が参考にして避難情報を発令することができる」とそれぞれ高く評価しております。空振りを恐れずにとはいいますが、いざ避難情報を発令する場面では自治体職員に迷いが生ずると伺っており、アドバイザーの存在は職員にとって大きな支えになるものと思われまます。そして、荒川や石神井川等の氾濫による水害リスクが高い北区において、区民の命を守るための的確な災害対応を実行するためには、北区の気象特性と地形特性に精通した専門家の配置が必要であると考えます。そこで、区民の命を守る防災対策強化のため、ひとたび災害が起こりそうな時には、気象台から発表される情報を読み解き、地形特性などを踏まえ、避難情報の発令などの各種判断を助言する役割を担い、平常時には地域防災計画や防災マニュアル等の作成、職員を対象とした気象解説や防

災気象情報に関する講習。地域住民等を対象とした防災教育活動などに気象防災ア

ドバイザーを活用すべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。

3点目はHSC（とても敏感な子ども）への理解と支援についてです。

「音や光、においに敏感」「気を使い過ぎて疲れやすい」など、人一倍繊細な特性を持つ子どもは「ハイリー・センシティブ・チャイルド（HSC）」と呼ばれています。

5人に1人が該当するとされ、不登校の原因になっている可能性もあるといわれています。

HSCは、アメリカの心理学者エレイン・アーロン博士が1996年に提唱した概念で、主に①何事も深く考えて処理する②五感が敏感で、過剰に刺激を受けやすい③共感力が高く、感情の反応が強い④ささいな刺激を察知するという4つの特性があるとされています。日本でも3年ほど前からHSCの大人版であるHSP（ハイリー・センシティブ・パーソン）に関する書籍の出版が相次ぎ、注目を集めるようになってきました。その背景として、SNSの発達で、人間関係に気を使い過ぎて疲れたり、息苦しさをを感じる人が増えていることが挙げられています。よく混同されるのが「発達障がい」で、感覚過敏や細かい点へのこだわり、集団になじみにくいなどの特徴が共通しており、小学校低学年までは見分けにくいとされていますが、HSCは人の気持ちへの共感力が高いという点で大きく異なります。

HSCへの関わり方については、「マイペースを尊重してあげること」が重要で、

厳しいしつけは、自分の性格を嫌いになったり、自信を失わせてしまうため逆効果になるといいます。食べ物の好き嫌いや、服がチクチクして着られないなどの感覚過敏で生活に支障が出る場合は、各家庭において妥協点を見つけていく工夫が求められています。しかしながら、学校現場ではH S Cが周囲から理解されず、本人が悩みを抱えている現状があるのではと懸念されます。H S Cについて区としてどのような認識を持っているのか、お聞かせください。

全国からH S Cの相談を受けているN P O法人千葉こども家庭支援センターの杉本理事長によると、「学校の先生が怒鳴るのが怖い」との相談が多いといえます。「自分が叱られていなくても、ピリピリした教室の雰囲気からおおきな負担を感じてしまう」と。

また、思慮深さゆえに授業で手を挙げられず、先生から「積極性が足りない」と心配されることもあります。本人は頭をフル回転させて授業に参加していても、表面的に活発な子が評価され、自信を失うことも多いといえます。本人が理不尽に感じるものが蓄積すると学校に行く気力を保てなくなり、不登校につながることもあります。

そこで、まずは学校現場でのH S Cに関する情報の周知を図り、教員の質の向上や教育環境の改善を進めるとともに、H S Cの実態を掌握し、必要な理解と適切な支援を検討することが必要と考えますが、区の見解をお聞かせください。

4点目は魅力的な公園づくりについてです。

本年7月、我が会派で Park-PFI を活用した公園整備事業について盛岡市に視察に伺いました。盛岡市では「木伏緑地」「盛岡城跡公園」「中央公園」の3公園に関して Park-PFI を活用しています。本事業の狙いを伺ったところ、「公園の維持管理費用は大きな課題ですが、Park-PFI を活用した3つの公園は、そうしたネガティブな思考だけでなく、積極的にまちの賑わいをつくっていきたいという考えに基づく取組みであり、これからの都市公園は量を造る時代ではなく、質を高める時代、公園それぞれの個性が重要となります。市の中心部に魅力ある空間が生まれることによる周辺への波及効果も狙いの一つです」と語られていました。

現地を視察した「木伏緑地」は、盛岡駅東口の北上川沿いに位置し、普段は市民の憩いの場として、また年数回の地元商店街等主催のイベントなどに活用されていましたが、日常の利用者が少なく、好立地の割に賑わいが不足していること、駅東口周辺や当該緑地にトイレがないことが課題となっていました。そこで Park-PFI 制度を活用し、公衆トイレを整備するとともに、緑地利用者等の利便性向上に繋がる飲食店等の民間収益施設を整備しました。

盛岡駅東口は県内で最も集客が見込めるエリアですが、賃料が高く、資金体力のある企業が進出することで、地元資本の飲食店が出店できず、地域外へ売上金が流出してしま

う現状を改善するために、「木伏緑地」で地元飲食店の出店機会を創出し、地域経済の循環を図りました。また、芝生広場というオープンスペースが生み出されたことで、横になってくつろぐ、読書をする、仕事をするなど、公園利用者の多様な使い方が見られるようになり、公園の持つポテンシャルを引き出し、「公園の本来あるべき姿」を体現している公園と高く評価されています。

北区では、現在飛鳥山公園において公民連携による魅力向上事業として、飲食施設（カフェレストラン）やパーゴラ等の整備、公衆トイレの改修を行っています。カフェレストランの設置は我が会派でも要望しておりましたので大いに期待しています。その上で、今後の飛鳥山公園の方向性について、公園マネジメント協議会の中で検討して頂いておりますが、飛鳥山公園の持つポテンシャルを引き出すためには、渋沢史料館との一体化した取組みは欠かすことができないものと考えます。渋沢栄一翁、桜、あじさい、鉄道と様々なコンテンツを持った飛鳥山公園の魅力を向上させていくために、どのような考えを持っているのか、区の見解をお聞かせください。

今回、建設委員会で視察に伺った堺市の大蓮公園のように、地域住民の皆様、一人ひとりを公園づくりの当事者として巻き込むことが重要であると考えますが、区の見解をお聞かせください。同じく視察に伺った姫路市では、公民連携による持続可能な仕組みを作るために、行政が担うべき役割として、民間の事業意欲や活用アイデアを把握し、適切な選択と集中に基づく規制緩和措置が一番の肝要であるとおっ

しゃっていましたが、私も正にその通りであり、民間事業者が意欲を持って取り組めるようにすることが成功の鍵であると考えます。公民連携の今後の方向性について、区の見解をお聞かせください。

また、飛鳥山公園に限らず北区には高いポテンシャルを持った公園が多く存在しています。例えば私の地元、滝野川・西ヶ原地域には醸造試験場跡地公園、滝野川公園、西ヶ原みんなの公園があります。

醸造試験場跡地公園に隣接する重要文化財の旧醸造試験所は、その建造物としての価値はもとより日本酒そして発酵文化の歴史そのものと言える建物であり、観光的に重要な資源であると考えます。近くには外国人観光客のための宿泊施設もあり、コロナ禍以前の夏の地域の盆踊りには多くの外国人の方が訪れていました。11月26日、27日には旧醸造試験所第1工場にて北区紙フェスタが開催されますが、区として今後周辺部の土地を購入し、醸造試験場跡地公園との一体活用を含め、重要文化財の建物を生かしたさらなる活用を積極的に進めていくべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。

また、滝野川公園にはテニスコートがあり、滝野川体育館とも隣接していることから、新たにスケートボードパーク等を整備し、スポーツに特化した特徴を有する公園にすべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。

そして、西ヶ原みんなの公園においては、盛岡市の取組みを参考にコロナ禍でキ

ツチンカーへと業態変更している地元飲食店の出店機会を創出し、地域経済の活性化と賑わい空間の創出を図るべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

最後に田端・西ヶ原地域の諸課題についてです。

この3年間で7園の私立保育園を開設して頂き、保育園の待機児童問題が大きく改善されたことは大変に感謝しております。北区全体としても令和3年度18名、令和4年度4月時点での待機児童は16名と概ね解消されてきています。しかしながら、4月以降、私の地元地域において0歳児の待機が多く発生している一方で他の地域では定員割れを起こしている保育園もあると伺っています。毎日の送り迎えを考えると、あまりに距離の離れた保育園に通うことは現実的ではありません。この地域偏在を解消するために、区として送迎バスを運行するなどの対策を講じて頂きたいと要望しますが、区の見解をお聞かせください。

次に東京都市計画道路補助第92号線（中里3丁目～田端5丁目）区間について伺います。この事業は、JR山手線の上空に橋梁を整備し、中里3丁目と田端5丁目の完成区間を結ぶ道路を新設するもので、地域の防災性の向上に大いに役立つ事業であると認識しています。この区間の道路が整備されることの効果について区の見解をお聞かせください。

決算特別委員会でも質問させて頂きましたが、田端駅周辺のエレベーター設置に関して実施した現場の試掘調査の結果、特に支障物の確認の結果について教えてく

ださい。その上で、工事の計画について予定通り令和5年度に着工できる目途は立っているのか、改めて区の見解をお聞かせください。

最後に、大規模水害時における避難場所の確保についてです。

北区では、荒川の上流域を含めた広範囲で大雨が降るような大型台風の接近など、荒川氾濫の恐れがあると判断した場合に、浸水の危険の少ないエリアだけに避難場所を開設するとしていますが、低地部の方を受け入れるためには、避難場所が足りないと考えます。実際、令和元年の台風19号の際も西ヶ原の防災センターは他区の方も含め多くの人で溢れかえっていました。そこで地域からも要望がでていますが、聖学院、滝野川女子学園等私立高校を避難所として使用できるように交渉すべきと考えますが、区の見解をお聞かせください。